

66. 「君が生まれてきてとても幸せだよ」

2016.3.1 遠藤清賢

私たちは幼い子供たちに対して親としてどのような励ましの言葉をかけているのでしょうか、生まれたばかりの子どもに対しては、自分の素直な喜びを、そのまま語りかけていたと思います。子どもが笑顔で微笑んだ時、何か声を出しているとき、私たちはその様子を見て「笑顔を見せてくれてありがとう。」「あなたの声を聞かせてくれてとても嬉しい」ということを子ども達に返していたと思います。親としてそうすることが自然にできていました。しかし、子供が成長し言葉を話し、自由に歩き、走ることができ、いたずらを始めるようになった時、私たち親の姿は知らず知らずのうちに変化していたことに気付くと思います。「これはしてはいけません。」「静かにしなさい」「はやくご飯を食べなさい」等、子どもの行動に共感するよりも子どもの行動を注意し、抑制する方が増えてしまっていることに気付くと思います。



幼い時にたくさんの愛情をもらった子どもたちほど、安定した精神を持ち、自由で逞しい生命力を持った人間に育つのです。子どもの躾とは、悪いことを教え注意することではないのです。親として子供の成長した喜びを伝えることが真実の躾なのです。親の努めは子どもの成長を支えることです。体の成長と心の成長です。特に私たちが思い違いをしているのが心の成長を支えるということです。これは子どもの姿を否定し制御することではなく子どもの姿を肯定しその姿を喜ぶことが非常に大切なのです。たとえ子どもが悪いことをしてしまったとしても、それを頭ごなしに叱るのではなく、子どもの悪い行為を親として一緒に悔いることです。親も悪かったことを子どもに伝え親子として一体感を共有できれば、そのいけない行為は貴重な教訓となるはずです。

子どもが大きくなるに従って、どうしてなのか私たちは子どもの成長した姿を喜びや嬉しさに表現できなくなってしまう。しかし、子ども達のために汗水を流し毎日働いているのですから、子どもを授かったことに感謝しその喜びを素直に子どもに伝えることは出来るはずです。そうすることでその子は素晴らしい人生を歩むことができると私は信じています。今から子ども達に語ってあげて欲しいと思います。「君が生まれてきてとても嬉しい」「君が生まれてとても幸せだよ」と毎日1回以上語ることができればと思います。そして親として生きている間は子どもが大きくなっても続けたいと思います。

洋風大学芋《材料》4人分
さつま芋 1本 (200～250g)
揚げ油 適量、
砂糖 大さじ 1.5
レモン汁 大さじ 1、
水 大さじ 1
パセリ 少々

《作り方》

1. さつま芋を乱切りにし、水にさらす。
2. パセリをみじん切りにする。
3. さつま芋の水気をよく切り、180℃位の油で素揚げする。
4. レモン汁、砂糖を合わせ小鍋で煮立たせる。
5. 煮立たせたものにパセリを混ぜ、揚げたさつま芋をからめる。



奥州市江刺区男石1丁目3-5 社会福祉法人 江刺保育園 子育て支援事業

電話 0197-35-1522 ファックス 0197-35-1741

子育て広場「友遊広場」専用電話 090-7327-9686

Eメール esahoiku@pup.waiwai-net.ne.jp ホームページ <http://www.esashihoikuen.com/>